



金子直吉の「天下三分の計」など  
博物館<sup>(56年度)  
開館予定</sup>で公開へ

はめ、金直吉が倒産の昭和九年に愛用した手帳「社約の本」が使ったもの。これで金直吉は、本が使ったとき「日本美術文庫」であることを示す。書籍、縮図など、全部で二千件、二十九点。既存商店関係資料と二種目田さんによる趣味で集めた来館回顧画がかかるほか、その他の資料は神奈川県立図書館の蔵書である。これら二つのなかで、特に注目されるのが、元の金直吉手紙と大きな金額の時計、金直吉手紙は大正六年、金が当時の商店口である。

貴重な資料

金木商店の  
ゆかりの老人 市へ寄贈

大正時代の神戸経済界のトップ企業で、当時の三井、三菱と肩を並べた世界的な総合商社・金木商店にまつわる貴重な資料が一冊、神戸市に寄託されました。

同商は絶頂期を巻き戻す金鎖・金直吉（故人）の「天下三分の計」の手紙や座敷帳、諸般報などです。それから明治から昭和初期の大恐慌を倒産するまで、金木商店の興亡や、神戸経済史をひも解くうえで大切な記録ばかり。同書は五十年ぶりに開館する市立博物館に保存、一般公開していきます。

△鈴木商店の資料を神戸市へ寄託したことを紹介する神戸新聞

従つて五年前は味わつた石油ショックと同様相手国から供給がカットされるとか、又相手国の内乱、労働争議等で日本向けが二、三ヶ月遅延したとすれば、たちまち鉄鋼業を始め関係業界は悲鳴を上げる結果となり、全く心細い要素が潜在しているのであります。この様な状態は、石油・金属に限らず、輸入する全ゆる資源でも同様であります。

一方、公害問題は社会の多様化と共に、年々深刻な様相を呈しておりますが、特に大気汚染の原因となる工場煙突からの亞硫酸ガス、これは主として工場で燃焼される重油や軽油に含まれる硫黄が原因であり、この為政府、関係官庁は、ここ十年来これ等に含まれる硫黄分を低くする為の装置を各企業に設置させたり、又その大元締である石油精製会社には、重油・軽油・灯油中の硫黄分を取り扱う（脱硫）様に指導しています。

その重油・灯油・ガソリン等の硫黄分を脱硫するのに役立つ

力陽鉄工㈱は昭和二十四年設立以来モリブデンを中心として漸次、チタン、バナジウム、ニオブ等、合金鉄の生産に進出し、いわゆる特殊金属分野を歩み続け、安定したシェアを保持し、今日に至っております。

一方、我が国に於る此等金属の消費は、昭和三十年から四十年代の高度成長期に於ては、年間平均二〇%近い割合で消費が増えた結果、日本は今や世界の大量消費国となつております。しかし残念な事に小資源国である日本は、此等金属が殆んど産出しない為、消費量の九五%以上を海外からの輸入に依存しているのが現状であり、この点は石油とかウラン等と全く同一環境と云えます。

を使っていると石油の臭が部屋中に充满し、その為の不快感を味わつた人も多いのではないでしようか。このいやな臭が実は灯油中の硫黄分から来る不快な原因でした。しかし最近の灯油は、その頃に比べ、硫黄分はグンと低くなり、あの不快な臭いは殆んど無くなっていると思います。勿論ストーブ自体の燃焼効率も良くなつた事も見逃がせません。又、ここ数年来、冬場では東京都心から遠く富士山が望める様になり、青空も多くなりました。これもやはり工場で使つている硫黄分の少い重油によつて、大気汚染が減少している結果でもあります。つまり少々大きめな言い方をしますと、モリブデンが公害追放に大きく役立つていると云えるのであります。

ているのがモリブデンなのであります。

# 太陽鉱工(株)が取組む再資源化事業

◆原稿募集

内 容 隨想 短歌 詩 俳句 絵画 写真  
鈴木商店往時の思い出につながる記  
録など。

必ず原稿用紙で、四百字詰五枚程度  
原稿は必ず縦書きにして、ます目一つに一  
字ずつ楷書で書いて下さい。

締切り 昭和五十三年十一月二十日まで必着  
送り先 神戸市生田区京町七二

資源をわざわざ日本へ運んで貯蔵料があるなどして資源をカバーする事は出来ない悲しさを、各企業が味わつたのであります。

従いまして、太陽鉱工が行う「使用済触媒」からの金属再資源化事業は、その点では将に国家の要求にマッチする所となり通産省を始め関係官庁、関係需要家から大きな期待が寄せられます。

工場は、赤穂工場内に、五二年秋に着工し本年なればの完成を目指に急ピッチで建設されております。

工場能力としては、一年間四五〇〇tを処理し、これによる回収金属量は、モリブデン約二五〇t／年 ( $\text{MoO}_3$ ) バナジウム約六〇〇t／年 ( $\text{V}_2\text{O}_5$ ) であります。

又この工場の特長としましては排熱の再利用、排水のクローズドシステムにより、無公害装置に設計されている点であります。

時代の要求に応え、存在意義のある企業をモットーとする太陽鉱工(株)の新規事業の一つを御紹介致しました。

源に対する考え方は一変し、省資源、資源リサイクル時代に突入しました。

このモリブデンは「触媒」としてその中に組成の一剖として用いられ、石油精製会社、又はガス会社等にて使用され、重油や都市ガスの脱硫用に使用されます。

触媒はその特長の一つとして「触媒自身の効力が消耗しても、形状や組成に変化はなく、触媒自体にカーボンとかバナジウムが付着する事により効力が劣化する」その場合取替が必要となるのであります。(自動車触媒も同様) そして取り出された触媒、即ち「使用済触媒」に当社は一早く着目したのであります。

「使用済触媒」からのモリブデン、バナジウムの金属回収は、数年間当社の技術陣を中心に研究を重ねて参りましたが、いろいろの問題が存在し未だに全てを解決したとは申せません。しかししながら、オイルショックを契機に、石油を始めとして、資